

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス十三教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2024年10月15日		～ 2024年11月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2024年11月2日		～ 2024年11月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ニーズに応じた支援の提供ができています マンツーマンによる個別集中的な支援によって、一人一人のニーズに応じた適切な支援の提供ができています。	・個別支援計画を意識した効果的な個別のプログラムを提供できるよう、日頃より職員相互で連携しながら支援にあたっている。	・定期的な研修や外部研修の活用を強化し、職員の専門性を高める施策を継続していく。
2	ご家族からのニーズを聞き取りができています 療育の度にご家族とお話する時間を作っていることで、基本的に週1回以上ニーズをお聞きできる機会を確保できている。	・親子通所いただくことで支援の現場を毎回ご家族に見ていただき、課題感の共有や次のアプローチ方法についてしっかりと方向性を合わせるようにしている。	・毎回の療育中の面談だけでは時間に制約があるため、個別に面談の時間を設定するなど、よりご家族のお話を伺う時間を確保する。
3	非常時の対応に備えている 各種対応マニュアル等を整備して非常時に備えたり、ご家族も参加した防災訓練の実施をしたりできている。	・年間計画を策定して、計画的に非常時対応のための研修や訓練を実施するようにしている。	・対応マニュアルについてのご家族への周知が不十分であるので、保護者待合室に見やすくまとめる等の工夫をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーになっていない 事業所が建物の2階にあるがエレベータがなく、バリアフリーになっていない。また、建物玄関前面が道路になっており車の往来がある。	・事業所の構造的な課題	・階段を降りる際は特に安全面の懸念があるため、できる限り職員が付き添って転倒や飛び出しの内容に配慮を継続する。
2	家族支援プログラムの提供 お子様への支援に注力している分、ご家族や兄弟児への支援については改善の余地があると感じている。	・家族支援のためのノウハウの不足。 ・家族支援を行う時間や環境の整備不足。	・まずは、現在の支援の中でできる家族支援の形（親子で参加できるプログラム）を増やしていく。 ・地域で行われているペアレントトレーニングや講習等の情報を整理し、わかりやすくご案内するようにする。
3	保護者同士の交流の機会 保護者と事業所との接点は多い一方で、保護者同士の交流の機会を作ることができていない。	・どのような形での交流の機会にニーズがあるのかを把握できていない。 ・日々の支援で手一杯となっており、交流の機会を作る検討に時間を割くことができていない。	・保護者同士の交流について、ニーズの聞き取り調査を行う。 ・業務改善によって余剰時間を作り、会の企画ができるようにする。